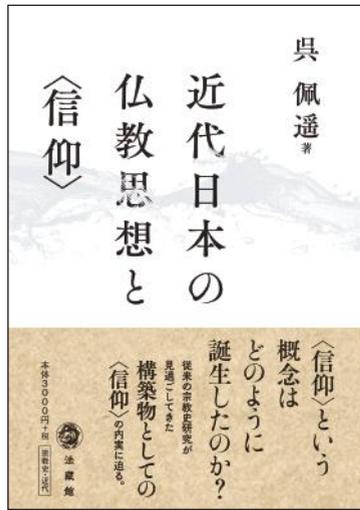


近代日本の仏教思想と〈信仰〉

ウー・ペイヨウ
呉佩遥著

▼四六判・上製カバー・264頁・定価三、三〇〇円

2025年4月刊行



「宗教」概念研究のなかで見過ごされてきた「信仰」概念の近代的形成に初めて焦点を当て、日本宗教史に新知見をもたらした画期的成果。

【目次】

序章

第一節 問題の所在／第二節 近代日本仏教史における「信仰」の語り方／第三節 宗教概念研究の展開と「信仰」／第四節 本書の対象と手法／第五節 本書の構成

第一章 「文明」の時代における「信」の位相

はじめに／第一節 島地黙雷と明治初期の政教関係をめぐる先行研究／第二節 明治初期の啓蒙系雑誌から見た「信」の語り方／第三節 島地黙雷における護法論の展開／第四節 文明・道徳・国民教化／第五節 国民教化における「信」の位相／おわりに

第二章 「仏教改良」と「信仰」

はじめに／第一節 明治中期における仏教知識人の言説空間を中心に——『令知会雑誌』から見る仏教改良論／第二節 「旧仏教」と「新仏教」——『令知会雑誌』における仏教改良論の展開／第三節 「仏教改良」と「信仰」——田島象三「仏教滅亡論」に着目して／第四節 「黙徒教」とキリスト教——「宗教」なる概念をめぐる論争／おわりに

第三章 「迷信」と「信仰」のはざま

はじめに／第一節 境野黄洋における「詩的仏教」の構想——『詩的仏教』という発想／第二節 争点としての経典／第三節 経典解釈への視座——仏教史研究の目的／おわりに

第四章 「新仏教」とユニテリアン

はじめに／第一節 広井辰太郎の信仰論を中心として——『新仏教』とユニテリアン／第二節 新仏教徒とユニテリアンの対話／第三節 「智」と「信」の調和を求めて——広井辰太郎における「信仰」の位相／第四節 加藤玄智の信仰論とユニテリアン／おわりに

第五章 「新仏教」の夜明け

はじめに／第一節 「健全なる信仰」の系譜——古河老川の「信仰論」／第二節 世紀転換期における「信仰」の語り方／第三節 「健全なる信仰」の構築——精神主義とニーチェ主義への批判を題材に／おわりに

第六章 「信仰」と「儀礼」の交錯

はじめに／第一節 明治後期の姉崎正治と宗教学の成立に見る——『宗教』概念研究のなかで見過ごされてきた「信仰」概念の近代的形成に初めて焦点を当て、日本宗教史に新知見をもたらした画期的成果。

第七章 明治後期・大正期の「人格」と「信仰」

はじめに／第一節 「偉人」としての釈迦の創出／第二節 「人格」と「信仰」の調和——井上円了と村上專精における「仏陀」／第三節 釈迦と阿彌陀仏の問題——歴史的事実と非歴史的理想のはざま／おわりに

第八章 日本仏教論における「信仰」

はじめに／第一節 「日本仏教」の誕生における「信仰」の位——村上專精と鷲尾順敬の日本仏教論／第二節 「新仏教」から「日本仏教」へ——境野黄洋における日本仏教論の展開／第三節 「支那仏教」と「支那思想史」——支那人論への展開／第四節 「他者」としての中国仏教——対華二十一カ条要求における布教権問題をめぐって／おわりに

終章

第一節 近代日本における「信仰」の歴史的展開／第二節 「信仰」と宗教概念／第三節 今後の展望
あとがき／索引

◆著者略歴

呉佩遥(ウー・ペイヨウ)
一九九四年中国生まれ。東北大学大学院国際文化研究科博士課程修了。博士(国際文化)。専門は宗教学(近代日本宗教史)。現在、中国上海師範大学人文学院准教授。
主な論考に「新仏教の夜明け——境野黄洋の信仰言説と雑誌『新仏教』」(『近代仏教』第27号、二〇二〇年)、「迷信と信仰のはざま——境野黄洋における『詩的仏教』の構想」(『宗教研究』第96巻第1輯、二〇二三年)、「近代日本における『信仰』と『儀礼』の語り方——姉崎正治の修養論と宗教学の成立をめぐって」(『日本研究』67集、二〇二三年)など。

| | |
|-------------------------------|-----|
| 注文書 | |
| (書店印) | |
| 様 | 冊 |
| ご担当 | |
| 法藏館 | |
| 定価 三、三〇〇円 | |
| 呉佩遥著 | |
| 近代日本の仏教思想と〈信仰〉 | |
| ISBN: 978-4-8318-5588-6 C1014 | |
| お住所 | お電話 |
| お名前 | |

ご注文はFAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

宗教学・思想史